



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(5月13日付イラン報道)

1. 為替レートと金貨価格 (13日付テヘラン・タイムズ紙)

12日土曜日のブラック・マーケットでの為替レートは、1ドル=15,800リヤルとなり、2日前の木曜日の1ドル=16,500リヤルと比べ、4.4%のリヤル高となった。また、バハーレ・アーザーディー金貨(「自由の春」金貨。イラン革命後、パフラヴィー朝時代の金貨に代え、イラン・イスラム共和国中央銀行が発行)は、水曜日時点では635万リヤルであったが、土曜日には595万リヤルまで値下がりしている。

2. 失業率 (13日付テヘラン・タイムズ紙)

イラン統計センター (Statistical Center of Iran) によると、イラン暦昨年 [イラン暦1390年 (2011年3月20日~2012年3月19日)] の失業率は12.3%となり、前年同期比で1.2%減少した。バーホナル (Mohammad-Reza Bahonar) 国会副報道官 (Iranian vice Majlis speaker) は2月に、現在の失業率を維持するためには、年間100万人の雇用を創出するべく、毎年1,200億ドルを投資する必要がある、と発言していた。

3. 南アフリカが米国からの制裁を受ける可能性 (13日付テヘラン・タイムズ紙)

南アフリカは、期限までにイラン産原油の輸入量を削減できない場合、米国からの制裁を受ける可能性がある。南アフリカ石油産業協会 (PIA; South African Petroleum Industry Association) 会長 (Executive Director Avhaphani Tshifularo) は、「仮に我々がイラン産原油の輸入量を削減できなかった場合、米国に対して制裁の延期および例外措置を求める必要がある。我々は南アフリカ政府が今月末までに措置を講ずることを期待し、それに従うことにしたい」と述べた。

4. イラン産原油生産量の減少 (13日付イラン・ニューズ紙)

イラン中央銀行がイラン産原油生産量の減少を発表したことに対して、イラン国営石油会社 (NIOC; National Iranian Oil Company) のガーレバーニー (Ahmad Ghalebani) 総裁 (Managing Director) が「イラン中央銀行のデータを受け入れることはできない」として反論した。ただし、OPECもイラン中央銀行と同様に、イラン産原油生産量が減少していることを認めている。

5. イラン産原油のタンカー備蓄（13日付シャルグ紙）

国際エネルギー機関（IEA；International Energy Agency）の発表によると、4月現在のイランの原油生産量は日量約330万バレルであるが、このうち10～15%を海上のタンカーに備蓄している。タンカーの備蓄可能量は数ヵ月分であり、売り先が見つからない場合は原油生産量を減少せざるを得ない。過去4ヵ月間のイランの石油収入は290億ドルに達するものの、前年同期は316億ドルであった。

6. イランセルによるメッセージ配信（13日付イラン・ニュース紙）

イランセル（IranCell；イラン第2位の携帯電話サービス会社。2005年に設立された）は、アブー・ムーサー島にイラン人記者団が上陸した際、「UAEによろこそ」とのメッセージを送信していた。イランセル幹部によると、このメッセージはUAEのエティサラット（Etisalat；Emirates Telecommunications Corporation；UAE最大の携帯電話事業者であるエミレーツ・テレコミュニケーションズ）から送られたものであり、周波数が重複しているためであるとしている。